

インドネシアの歌(7)

微妙な表現編

生兵法は怪我のもと

インドネシアのナツメロを歌っていて、時々解釈に困る言葉が出てくる。ナツメロ中のナツメロとも言える Aryati という曲の中に Dosakah hamba mimpi berkasih dengan tuan(夢の中であなたと愛を囁くのは罪になるのでしょうか)と男性が呟くのであるが、ここでは相手(アヤティという女性)に対して Tuan を使っている。生兵法では Tuan は男なんだが、アヤティは何故 Tuan と呼ばれるのだろうかと仲間内でも疑問が出た。"Juwita Malam"という曲にも汽車に乗り合わせた「月の化身か」と賛美する女性に Tuan を使っている。

歌が出来た時代には anda という便利な二人称がまだ使われていなかったのだが、一般の人の中で尊称に当たるような適当な二人称が見当たらなかったのかもしれない。そこで、辞書で調べてみたら、なんと女性に対して Tuan を使う用法が出ているではないか。即ち Tuan Putri とやんごとなき身分の女性に Tuan を使っているのである。歌の中では Aryati や月の化身は手の届かない神聖な存在であるので、ここでは Tuan を充てていいのだなと納得。

「…しないで!」という願望命令文に Jangan di- (動詞形)と受動態がよく使われる。例えば"Jangan Ditanya"という歌に jangan ditanya kemana aku pergi というくだりがある。ここでの疑問は何故 Jangan tanya と能動態でなく、ditanya と受動態になっているのか、どんな意味の違いが有るのかということである。正確に説明し難いのであるが、Jangan tanya は相手に対して「質問するな」という意味であり、一方 Jangan ditanya は特定の人に対して「聞くな」と言っているのではなく、対象になっている本人が他人から「質問されることのないように」という願望の意味であると解釈するに到ってやっと納得が出来たものである。

「問うなよ!」の意味ではなく、「問わんといてやってや(そっとしておいてや)!」という実に細やかな愛情が感じられる。ここにインドネシア文化を深く感じるのは筆者だけであろうか。さらに Riau 島の民謡"Soleram"の中に nanti jumpa kawan baru, kawan lama dilupakan jangan (先になって新しいお友達が出



来ても、古い友達のことでも忘れないでね)とやはり Jangan dilupakan という受動態表現が使われている。相手(現在の恋人か)に「忘れないでね」というよりは、将来古い友達になるかもしれない現在の自分が「忘れないでいて欲しい」という願望であろう。直接依頼するのではなく、間接的にそうあって欲しいという控えめな気遣い、ここにもインドネシアの精神を感じる。

インドネシアには多言語があるが、我々の歌う歌の中にも同じ物を指していると思われるのに多様な表現が使われている。"Rayuan Pulau Kelapa"というナショナルソングの中には椰子を表すのに Kelapa と Nyiur が使い分けられている。辞書には nyiur= kelapa となっている。しかし、歌の中では絵になるような風にとそぐ椰子の葉は melambai lambai nyiur di pantai という風に nyiur が使われており、豊穡を意味する場合は kelapa を使っている感じがする。即ち kelapa は椰子の実をより強く連想させる。スンダ民謡の"Es Lilin"でも椰子ジュースは kelapa muda であり、air nyiur ではない。

太陽を表すには我々がよく知っている Matahari が"Bunga Sakura"や"Setangkai Anggrek Bulan"などの歌に使われているが、"Bukit Berbunga"という歌では Mentari という matahari が訛ったような語が使われている。さらに"Kemesraan"というポップソングでは Surya というサンスクリット語が使われている。語の違いは定かには分らないが、少なくとも mentari は matahari の4音節に対して3音節なので詞のリズム感から変化した物と考えていいだろう。月を bulan と言わずに rembulan と歌うことも多い。これも挿入音を入れて2音節を3音節にして口調を整えるためであると考えれば自然である。これが我々外国人には難しい。

「歌う」という言葉では、nyanyi, lagu, dendang などがよく使われる。dendang は楽しんで何かしながらの場合。労働歌を歌う時は berdendang である。Cium という言葉も"Ayo Mama", "Aryati"等の歌に出てくるが、唇と唇によるキスではなく、鼻と鼻をくっつけあう挨拶とか頬ずりと取る方が自然である。日本人が普通キスという場合は"Melati dari Jayagiri"という歌の中で kecup という言葉が使われている。(渡辺重視)